

付録－1 点検表記録様式、記入要領及び記入例

目 次

1. 点検表記録様式.....	1
1-1 点検表記録様式の種類.....	1
1-2 点検表の記入要領.....	6
1-2-1 施設諸元.....	6
1-2-2 点検結果票.....	17
1-2-3 損傷記録票.....	18
1-2-4 板厚調査結果記録票.....	20
1-2-5 門型標識等調査結果記録様式.....	30

1. 点検表記録様式

1-1 点検表記録様式の種類

定期点検（初期点検、定期点検）は、「定期点検用点検表記録様式」を使用する。

「定期点検用点検表記録様式」については、道路標識、道路照明施設、道路情報提供装置の点検に使用できる共通様式として作成した。

ただし、橋梁、トンネル内、及び横断歩道橋に設置されている道路照明、道路標識等については、「大阪府橋梁点検要領」（令和 2 年 3 月大阪府都市整備部）、「大阪府トンネル点検要領」（令和 2 年 7 月大阪府都市整備部）及び「大阪府歩道橋点検要領」（平成 28 年 4 月大阪府都市整備部）に示された記録様式を基本とするが、場合によっては準用することができる。

表付 1-1 定期点検用点検表記録様式(1)

点検表（施設諸元）

種別		管理者		管理番号	
■位置情報					
道路種別		路線名		上・下別	
所在地				距離標 (km)	
緯度		経度		備考	
■構造情報					
支柱形式		表面処理形式		基礎形式	
支柱基部リブ形状		路面境界部の状況		灯具種類	
標識設置枚数及び標識番号		標識板の取付形式		標識板の落下防止対策	
ゆるみ止め対策の有無		合いマーク		制振装置の有無	
柱基部排水性向上対策		設置年月		備考	
■設置環境情報					
設置環境		海岸からの距離		融雪剤散布区間	
防雪対策実施区間		センサス年度		センサス区間番号	
道路幅員 (m)		歩道幅員 (m)		広域緊急交通路指定の有無	
				風規制実施区間	
				交通量	台/24h
				通学路指定の有無	
■点検情報					
点検種別		点検方法		点検年月日	
点検員 (所属・氏名)				備考	
施設更新履歴		前回設置年月		前回点検年月日	
<p>■位置図 ■ポンチ絵、写真(全景、その他)等を添付</p>					

注1: 緯度・経度については、世界測地系で0.1"単位まで記入する。

注2: 距離標、センサス(年度、区間、交通量)については、ある場合に記入する。

表付 1-1 定期点検用点検表記録様式(2)
点検表（点検結果票）

種別	管理者		管理番号																						
■点検結果																									
部材及び点検箇所	部材等	点検箇所	記号	対象有無	点検状況	損傷程度の評価 変状の種類														対策の 要否	部材の 健全性の 診断 ※1				
						鋼部材				コンクリート部材				共通											
						亀裂 点検時	指 置後	ゆるみ ・脱落 点検時	指 置後	破断 点検時	指 置後	腐食 点検時	指 置後	変形 ・欠損 点検時	指 置後	ひびわれ 点検時	指 置後	うき ・剥離 点検時	指 置後			滞水 点検時	指 置後	その他 点検時	指 置後
支柱	支柱本体	支柱本体	Pph																						
		支柱継手部	Ppj																						
		支柱分岐部	Ppd																						
		支柱内部	Ppi																						
	支柱基部	リブ・取付溶接部	Ppr																						
		柱・ベースプレート溶接部	Pbp																						
		ベースプレート取付部	Ppb																						
		路面境界部 (GL-0)	Pgl-0																						
		路面境界部 (GL-40)	Pgl-40																						
	その他	柱・基礎境界部	Ppb																						
		電気設備用開口部	Phh																						
	横梁	横梁本体	横梁本体	Chh																					
			横梁取付部	Chi																					
			横梁トラス本体	Cth																					
溶接部・継手部		横梁仕口溶接部	Cbw																						
		横梁トラス溶接部	Ctw																						
		横梁継手部	Cbj																						
吊下げ金具		吊下げ金具	Chh																						
	振れ止めピン	Ckp																							
標識板等	標識板	標識板(添架含む)	Srs																						
		標識板取付部																							
	道路情報板	道路情報板	Srs																						
		道路情報板取付部																							
	その他(灯具等)	灯具	Sli																						
灯具取付部																									
基礎 ブラケット	基礎コンクリート部	Bbc																							
	アンカーボルト・ナット	Bab																							
	ブラケット本体	Brh																							
	ブラケット取付部	Bri																							
その他	その他	バンド部(共架型)	Xbn																						
		配線部分	Xwi																						
		管理用の足場・作業台	-																						
		標識落下防止ワイヤー	-																						
		その他	-																						
■所見(その他特記事項)														施設の健全性の 診断 ※2											
<p>■点検予定</p> <table border="1"> <tr> <td>点検ができなかった部位</td> <td></td> <td>点検予定時期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>点検ができなかった理由</td> <td></td> <td>点検実施方法</td> <td></td> </tr> </table> <p>■ポンチ絵、写真</p>																		点検ができなかった部位		点検予定時期		点検ができなかった理由		点検実施方法	
点検ができなかった部位		点検予定時期																							
点検ができなかった理由		点検実施方法																							

※1: 少なくとも門型式の道路標識及び道路情報提供装置の初期点検及び定期点検では部材単位の健全性の診断を行う。
 ※2: 門型標識等の初期点検及び定期点検では、施設毎に施設単位で総合的な健全性の診断を行う。
 ※3: 部材の健全性の診断欄のハッチ(濃いグレー)部は、通常では存在しない点検箇所と変状の種類を組み合わせてである。
 ※4: 点検調査(例)は、各道路管理者の判断により、大型の道路標識及び道路情報提供装置以外についても定期点検を実施する場合を想定し、共通様式として使用できるよう作成したものである。

表付 1-1 定期点検用点検表記録様式(3)
点検表（損傷記録票）

種別		管理者			管理番号	
----	--	-----	--	--	------	--

■損傷程度の評価および措置(応急含む)

部材名称											
損傷程度 の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		亀裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価										
	措置後評価										
措置 応急 含む	実施内容										
	未 実 施	理由									
		予定時期									
		予定内容									
特記事項											

- ポンチ絵、写真
- ・損傷部位、箇所を記載
 - ・措置(又は応急措置)前後の写真 等

※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(門型標識等については、変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

表付 1-1 定期点検用点検表記録様式(4)
点検表（板厚調査結果記録票）

種別	管理者	管理番号
周辺環境	腐食速度[mm/年]	管理板厚[mm]

■板厚調査結果

調査部位					測定厚			管理板厚 t _c (mm)	限界板厚 t _l (mm)	損傷程度の 評価
部材	調査箇所	記号	測定位置	番号	1回目	2回目	最小厚 t(mm)			
支柱	支柱本体	Pph	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
	電気設備用開口部	Phh	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
			左	9						
			右	10						
	柱・ベースプレート溶接部	Pbp	0°	1						
			45°	2						
90°			3							
135°			4							
180°			5							
225°			6							
270°			7							
315°			8							
路面境界部 (GL-40)	Pgl-40	0°	1							
		45°	2							
		90°	3							
		135°	4							
		180°	5							
		225°	6							
		270°	7							
		315°	8							
柱・基礎境界部	Ppb	0°	1							
		45°	2							
		90°	3							
		135°	4							
		180°	5							
		225°	6							
		270°	7							
		315°	8							
横梁	横梁本体	Cbh	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
	横梁・ベースプレート溶接部	Cbh	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
	横梁仕口溶接部	Cbw	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						

※測定位置については、円周方向8箇所以上とし、腐食状況等に応じて測定箇所を増やすなど適切に状態を把握できるよう考慮すること。
※標準的な測定位置については、大阪府道路附属物（標識・照明等）点検要領（令和4年8月大阪府都市整備部）付録-3を参照。

1-2 点検表の記入要領

選択項目については、各道路管理者が共通様式とし使用できるよう選択項目を幅広く記載しているため、記入に際しては、適宜、項目を選択し記入すること。

1-2-1 施設諸元

(1) 種別等

① 種別

点検対象施設を以下より選択し、記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路標識 ・道路情報提供装置 ・道路情報提供装置（添架物有） ・道路照明施設 ・その他

※道路情報提供装置に標識等（占用物件含む）が添架されている場合は、「道路情報提供装置（添架物有）」を選択する。

② 管理者

当該施設の管理者を記入する。

【記入例】

	< 第 1 欄 >	< 第 2 欄 >
管理者	大阪府	△△土木事務所

③ 管理番号

各道路管理者が定める当該施設の管理番号を記入する。

(2) 位置情報

① 道路種別

当該施設が設置されている路線の種別を以下から選択し、記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道（指定区間外） ・主要地方道 ・一般府道 ・その他
--

② 路線名

当該施設が設置されている路線名を記入する。

なお、同一路線名のバイパス、旧道等に設置されている場合は、路線名の後ろに（ ）書きでその旨を記載する。

【記入例】

〇〇〇〇号（〇〇バイパス）

〇〇〇〇号（旧道）

③ 上・下別

当該施設が設置されている路線の上・下の別を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・上り …… 終点から起点向きの車線
- ・下り …… 起点から終点向きの車線
- ・上・下 …… 上・下線を跨いでいる場合

④ 所在地

当該施設の所在地を記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
所在地	大阪府	△△市	□□□町 1-2

⑤ 距離標 (km)

km単位とし、小数点以下3位(m)まで記入する。ただし、距離標が無い場合は、記入しない。

⑥ 緯度・経度

当該施設の代表箇所の緯度・経度（世界測地系、60進法で0.1秒まで）を記入する。

⑦ 備考

その他位置に関する情報等があれば記入する。

(3) 構造情報

① 支柱形式

当該施設の支柱形式を以下より選択し、記入する。

<道路標識・道路情報提供装置の場合>

【選択項目】

- ・路側式
- ・片持式（逆L型）
- ・片持式（F型）
- ・片持式（テーパーポール型）
- ・片持式（T型）
- ・門形式（オーバーヘッド型）
- ・添架式
- ・その他

<道路照明施設の場合>

【選択項目】

- ・ポール照明方式（テーパーポール型）
- ・ポール照明方式（直線型）
- ・ポール照明方式（Y型）
- ・添架式
- ・トンネル照明
- ・その他

② 表面処理形式

当該施設の表面処理形式を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・塗装式
- ・垂鉛めつき式
- ・塗装式+垂鉛めつき式
- ・その他

③ 支柱基部リブ形状

当該施設の基礎形式がベースプレート型の場合、支柱基部リブ形状を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・三角リブ
- ・U字リブ
- ・その他
- ・無

④ 路面境界部の状況

当該施設の支柱基部の路面境界部の状況を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・コンクリート
- ・アスファルト
- ・土砂
- ・ベースプレート露出
- ・インターロッキング
- ・その他

⑤ 灯具の種類

当該施設が道路照明施設の場合、灯具の種類を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・水銀灯
- ・ナトリウム灯
- ・蛍光灯
- ・LED
- ・その他

⑥ 標識設置枚数及び標識番号

当該施設に標識板が添架されている場合、すべての標識枚数及び標識番号を記入する。（ただし、占用物件は除く）

標識板が複数枚設置又は添架されている場合は、主たるものの標識番号を3つまで記入する。なお、当該施設に標識等の占用物件が添架されている場合は、備考欄に枚数等を記載する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
標識設置枚数 及び標識番号	5	108の3、118の2-A、204

⑦ 標識板の取付形式

取付形式を以下より選択し、記入する。

なお、取付形式が異なる複数枚の標識が設置されている場合は、取付形式を3つまで記入する。

【選択項目】
・固定式
・吊下式
・その他

※吊下式とは、横梁から下側へヒンジ構造で標識板を吊下げて設置する方式



図付 1-1 吊下式の例<参考>

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
標識板の 取付形式	吊下式	固定式	

⑧ 標識板の落下防止対策

対策の実施状況について以下より選択し、記入する。なお、「有（全部、一部）」
「今回実施（全部、一部）」の場合は、具体的な対策内容を記入する。

【選択項目】

- ・有（全部）
- ・有（一部）
- ・今回実施（全部）
- ・今回実施（一部）
- ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
標識板の落下 防止対策	有	落下防止ワイヤー

⑨ ゆるみ止め対策の有無

ボルト・ナット等のゆるみ止め対策の実施状況について以下より選択し、記入する。
なお、「有（全部、一部）」「今回実施（全部、一部）」の場合は、具体的な対策方法を
記入する。

【選択項目】

- ・有（全部）
- ・有（一部）
- ・今回実施（全部）
- ・今回実施（一部）
- ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
ゆるみ止め 対策の有無	有（一部）	緩止ナット ダブルナット

⑩ 合いマーク

ボルト・ナットの合いマークの実施状況を以下より選択し、記入する。
 なお、一部の場合は、実施箇所を具体的に記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有（全部） ・有（一部） ・今回実施（全部） ・今回実施（一部） ・無
--

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
合いマーク	有（一部）	添接板、橋台アンカーボルト・ナット

⑪ 制振装置の有無

当該施設の制振装置の設置状況を以下より選択し、記入する。
 なお、「有」「今回実施」の場合は、その具体的な方式を記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有 ・今回実施 ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
制振装置の有無	有	チェーンダンパー

⑫ 柱基部排水性向上対策：

当該施設の柱基部の排水性向上対策の実施状況を以下より選択し、記入する。なお、「有」「今回実施」の場合は、その具体的な対策内容を記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有 ・今回実施 ・無 ・当該無し
--

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
柱基部排水性向上対策	有	柱基部に排水勾配を設置

⑬ 設置年月

完成年月を記入する（年は西暦を記入）。

なお、完成年月が不明の場合は、第1欄に「不明」と記入する。

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
設置年月	1965年	9月

⑭ 備考

その他構造に関する情報、占用物件の情報等を記入する。

(4) 設置環境情報

① 設置環境

当該施設の設置環境を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・一般部
- ・橋梁部
- ・トンネル
- ・横断歩道橋
- ・その他

② 海岸からの距離

最も近い海岸までの距離を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・100m未満
- ・100m～1km未満
- ・1km～5km未満
- ・5km～20km未満
- ・20km以上

③ 融雪剤散布区間

当該施設設置箇所が、融雪剤（凍結防止剤）散布区間の場合は「該当する」、散布区間で無い場合は「該当しない」と記入する。

④ 風規制実施区間

当該施設設置箇所が、風や吹雪等による通行止め規制が規定されている規制区間内に有る場合は「該当する」、規制区間外の場合は「該当しない」と記入する。

⑤ 防雪対策実施区間

当該施設設置箇所が、防雪対策（吹だめ柵、吹払い柵、防雪林、スノーシェルター等）が設置されている区間の場合は「該当する」、設置されていない区間の場合は「該当しない」と記入する。

⑥ センサス年度、センサス区間番号、交通量

当該施設が設置されている路線が、全国道路・街路交通情勢調査（以下、「センサス」という。）対象路線の場合に記入する。センサス区間番号は 10 桁又は 11 桁、交通量は、24 時間交通量を記入する。

【記入例】

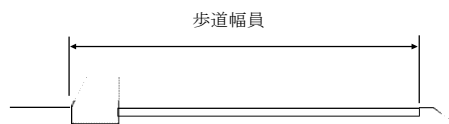
センサス年度	R2	センサス区間番号	123456878901	交通量	1234 台/24h
--------	----	----------	--------------	-----	------------

⑦ 道路幅員 (m)

道路幅員は、「車道幅員+路肩」とし、少数点以下 1 位まで記入する。

⑧ 歩道幅員 (m)

歩道幅員は、「縁石前面」から「歩道舗装端又は敷地境界」間とし、少数点以下 1 位まで記入する。ただし、当該施設設置箇所に歩道がない場合は、「無」と記載する。



図付 1-2 歩道幅員の考え方<参考>

⑨ 広域緊急交通路指定の有無

当該施設の設置箇所（路線）の広域緊急交通路指定の「重点 14」「その他」「無」

を記入する。

⑩ 通学路指定の有無

当該施設の設置箇所（路線）の通学路指定の「有」「無」を記入する。

なお、通学路は、交安法指定通学路の他、学校が独自に指定している通学路を含む。

⑪ 備考

その他設置環境に関する情報等があれば記入する。

(5) 点検情報

① 点検種別

実施した点検の種別を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・初期点検
- ・定期点検（詳細）
- ・定期点検（中間）
- ・臨時点検
- ・特定の点検計画に基づく点検

② 点検方法

点検方法を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・近接目視
- ・近接目視＋非破壊検査
- ・外観目視
- ・その他

※門型式の道路標識・道路情報提供装置については、「近接目視」または、「近接目視＋非破壊検査」のどちらかを選択する。

※その他を選択した場合は、備考欄に詳細を記載する

③ 点検年月日及び前回点検年月日

今回及び前回の点検実施年月日を記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
点検年月日	2022年	4月	1日

※設置年については、西暦で記入する

④ 点検員（所属・氏名）

点検を実施した点検員の所属および氏名を記入する。

なお、所属については、直営の場合は課名・班名など、業務委託の場合は会社名等を記入する。

⑤ 備考

非破壊検査の種別やその他点検に関する情報等があれば記入する。

⑥ 施設更新履歴

更新履歴がある場合「有」、無い場合「無」、不明の場合「不明」を記入する。

⑦ 前回設置年月

更新履歴「有」の場合、前回設置年月を記入する。

1-2-2 点検結果票

(1) 点検結果

① 対象有無

当該施設について、点検結果票に記載された部材の点検箇所「有」「無」を記入する。なお、部材の対象は、道路管理者が管理しているもののみとし、占用物件（標識等）は対象外とする。

② 点検状況

対象有無で「有」とした部材について、点検を実施した場合は「済」、実施していない場合は「未」を記入する。

③ 損傷程度の評価

各部材の点検箇所について、変状の種類毎に損傷程度の評価区分（a、c 又は e）を記入する。また、点検時に補修・補強等の措置（応急措置含む）を行った場合は、措置後の欄に措置後の補修・補強等後の評価区分を記入する。

④ 部材の健全性の診断

損傷程度の評価、損傷の原因や進行可能性、損傷が構造物の機能に与える影響を踏まえ、部材としての判定区分（I～IV）を記入する。

⑤ 施設の健全性の診断

部材の健全性の診断の結果などを踏まえ、当該施設全体としての判定区分（I～IV）を記入する。

部材及び点検箇所		対象 有無	点検 状況	損傷程度の評価										部材の 健全性の 診断 ※1		
				変状の種類												
				鋼筋材					コンクリート部材						共通	
表柱	表柱本体	有	済	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	III
	表柱基礎	有	済	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	II
	表柱基礎	有	未													
	表柱基礎	有	済	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	II
その他	バックストップ	有														
	風防壁	有														
	防護柵及び支柱	-														
	幅寄せ下路パイパー	-														

図付 1-3 【記入例】点検箇所・部材及び施設の健全性の診断

(2) 所見（その他特記事項）

判定区分だけでは表現できない事項や詳細調査の必要性の有無、引き継ぎ事項等について記入する。

(3) 点検予定

点検ができなかった部材、その理由、点検予定時期、点検実施方法について記入し、必要に応じて写真、ポンチ絵等を添付する。

1-2-3 損傷記録票

部材の健全性の診断において、点検箇所別の変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に「損傷記録票」を作成する。

(1) 部材名称

変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された点検箇所を記入する。

(2) 損傷程度の評価

該当部材について、点検結果票の変状の種類毎に損傷程度の評価区分（a、c、又はe）を全て記載する。

(3) 措置（応急含む）

① 実施内容

点検時に補修・補強等（応急含む）を実施した場合、補修・補強等の内容を記入する。

【記入例】

- ・ボルトの再締め付け
- ・浮き錆の除去 等

② 未実施（理由）

点検時に措置を行わなかった理由を記入する。

【記入例】

- ・補修方法を検討する必要がある
- ・携行した資機材では対応ができなかった。 等

③ 予定時期

実施する予定がある場合、その時期を記入する。

【記入例】

- ・平成 26 年度中

④ 予定内容

補修内容等が決まっている場合、その内容を記入する。

【記入例】

- ・支柱基部に根巻きコンクリートを施工 等

(4) 特記事項

必要に応じて、損傷状況や詳細調査の必要性の有無等を記入する。

(5) 写真の添付

必要に応じて、損傷状況のわかる図、写真等を貼付する。

尚、付録-3「超音波厚さ計による板厚調査の実施手順」にて、板厚測定を行った箇所（8点で計測する際の起点となる）「0°」の位置が後の点検調査時にも把握出来るように、鉛直上に×印のマーキングすることを求めている。板厚調査を行った場合は計測点からマーキング箇所までを示した写真とともに、計測点から×印までの距離（高さ）を必ず記載すること。



図付 1-4 板厚調査箇所の写真添付例（損傷記録表様式）

1-2-4 板厚調査結果記録票

腐食等変状が見られ、板厚調査を実施した場合に「板厚調査結果記録票」を作成する。

(1) 測定厚

板厚調査を実施した部材・調査箇所・測定位置ごとに測定した厚さ（**0.1mm**単位）を記入する。測定位置は調査箇所の円周上 **45°** ごと **8** 点を、または **90°** ごと **4** 点を、測定回数は **2** 回を標準とし、これら **8** 点×**2** 回または **4** 点×**2** 回の最小値をあわせて記入する。

(2) 管理板厚

管理板厚とは今後 **5** 年の間に限界板厚に達する可能性のある板厚のことで、管理板厚＝限界板厚＋腐食速度×**5** 年により求め記入する。腐食速度は **0.1mm/年**を標準とし、管理板厚は限界板厚＋**0.5mm**を標準とする。

(3) 限界板厚

限界板厚は設計荷重に対して許容応力度を超過しない板厚のことであり、**付録-5**を参考にして記入する。

(4) 損傷程度の評価

該当部材について、板厚調査結果による評価区分を記入する。

評価区分については、点検要領**(1)**板厚調査による評価区分が参考となる。

表付 1-2 道路標識 <記入例> 点検表（施設諸元）

点検表（施設諸元）

種別	道路標識	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	------	-----	-----	---------	------	------

■位置情報

道路種別	主要地方道		路線名	大阪臨海線		上・下別	下り
所在地	大阪府	高石市	高砂一丁目			距離標 (km)	〇.〇〇〇
緯度	34° 31' 43.5"		経度	135° 25' 30.4"		備考	

■構造情報

支柱形式	片持式（逆L型）		表面処理形式	亜鉛めっき式		基礎形式	埋め込み型
支柱基部 リブ形状	無		路面境界部の 状況	土砂		灯具種類	
標識設置枚数 及び標識番号	1	108の2-B	標識板の 取付形式	吊下式		標識板の 落下防止対策	有（全部） 落下防止ワイヤー
ゆるみ止め 対策の有無	有（全部）	ダブルナット	合いマーク	今回実施（全部）		制振装置の有無	無
柱基部排水性 向上対策	当該なし		設置年月	不明		備考	

■設置環境情報

設置環境	一般部	海岸からの 距離	100m~1km未満	融雪剤 散布区間	非該当	風規制 実施区間	非該当
防雪対策 実施区間	非該当	センサス年度	H27年	センサス 区間番号	27400290360	交通量	43253台/24h
道路幅員 (m)	33.0	歩道幅員 (m)	無	広域緊急交通路 指定の有無	その他	通学路指定の 有無	無

■点検情報

点検種別	定期点検（詳細点検）	点検方法	近接目視+非破壊検査	点検年月日	2021年〇月〇日	前回点検 年月日	2016年〇月〇日
点検員 (所属・氏名)	株式会社〇〇〇〇		〇〇〇〇	備考			
施設更新 履歴	無	前回設置年月					

箇所図



全景（起点より）



全景（終点より）



基礎（起点側）



基礎（起点側）



注1：緯度・経度については、世界測地系で0.1"単位まで記入する

注2：距離標、センサス（年度、区間、交通量）については、ある場合に記入する。

表付 1-4 道路標識<記入例> 点検表（損傷記録票）

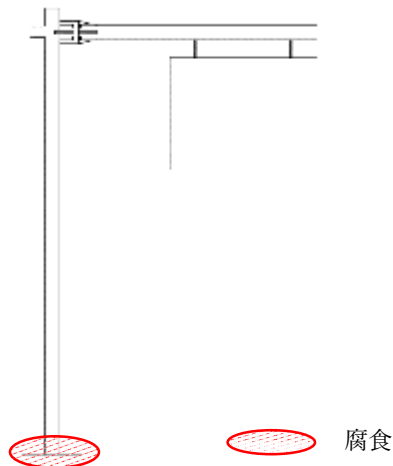
種別	道路標識	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	------	-----	-----	---------	------	------

■損傷程度の評価および措置（応急含む）

部材名称	路面境界部（GL-40）									
損傷程度 の評価	部材判定	変状の種類								
		鋼部材					コンクリート部材		共通	
		亀裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他
	点検時評価	a			c	a				-
	措置後評価									
(応急含む) 措置	実施内容									
	未実施	理由								
		予定時期								
		予定内容								
特記事項	・路面境界部において、腐食がみられる。早期に支柱本体の倒壊等はないが、予防保全の観点から対策を講じることが望ましい。									

損傷図

起点側から



※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

表付 1-5 道路標識<記入例> 点検表（板厚調査結果記録票）

種別	道路標識	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
	周辺環境			腐食速度[mm/年]		管理板厚[mm]

■板厚調査結果

部材	調査部位				測定厚			管理板厚 t _c (mm)	限界板厚 t _l (mm)	損傷程度の 評価
	調査箇所	記号	測定位置	番号	1回目	2回目	最小厚 t(mm)			
支柱	支柱本体	Pph	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
	電気設備用開口部	Phh	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
			左	9						
			右	10						
柱・ベースプレート溶接部	Pbp	0°	1							
		45°	2							
		90°	3							
		135°	4							
		180°	5							
		225°	6							
		270°	7							
		315°	8							
路面境界部 (GL-40)	Pgl-40	0°	1	4.3	4.2	4.1	3.9	3.4	I	
		45°	2	4.3	4.3					
		90°	3	4.4	4.4					
		135°	4	4.3	4.3					
		180°	5	4.1	4.1					
		225°	6	4.3	4.3					
		270°	7	4.3	4.3					
		315°	8	4.3	4.3					
柱・基礎境界部	Ppb	0°	1							
		45°	2							
		90°	3							
		135°	4							
		180°	5							
		225°	6							
		270°	7							
		315°	8							
横梁	横梁本体	Cbh	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
	横梁・ベースプレート溶接部	Cbh	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						
	横梁仕口溶接部	Cbw	0°	1						
			45°	2						
			90°	3						
			135°	4						
			180°	5						
			225°	6						
			270°	7						
			315°	8						

※測定位置については、円周方向8箇所以上とし、腐食状況等に応じて測定箇所を増やすなど適切に状態を把握できるよう考慮すること。
 ※標準的な測定位置については、大阪府道路附属物（標識・照明等）点検要領（令和4年8月大阪府都市整備部）付録-3を参照。

表付 1-6 道路情報提供装置（門型）＜記入例＞ 点検表（施設諸元）

種別	道路情報提供装置(添架物有)	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	-----	---------	------	------

■位置情報

道路種別	主要地方道		路線名	府道〇〇号線		上・下別	上・下
所在地	大阪府	〇〇市	〇〇町〇〇 1-2			距離標 (km)	〇〇〇. 〇〇〇
緯度	dd°mm'ss.S"		経度	ddd°mm'ss.S"		備考	

■構造情報

支柱形式	門型式（オーバーヘッド型）		表面処理形式	塗装式		基礎形式	ベースプレート型	
支柱基部 リブ形状	三角リブ		路面境界部の 状況	ベースプレート露出		灯具種類	-	
標識設置枚数 及び標識番号	2	117-A	標識板の 取付形式	固定式		標識板の落下 防止対策	無	
ゆるみ止め 対策の有無	有	ダブルナット（一部）	合いマーク	有（全部）		制振装置の 有無	無	
柱基部排水性 向上対策	無		設置年月	1989年	3月	備考	占用物件あり（標識版2枚）	

■設置環境情報

設置環境	一般部	海岸からの 距離	100m 未満	融雪剤 散布区間	該当しない	風規制 実施区間	該当しない
防雪対策 実施区間	該当しない	センサス年度	R1	センサス 区間番号	1234567890	交通量	1,000台/12h・2,000台/24h
道路幅員 (m)	6.5	歩道の有無	有	広域緊急交通路 指定の有無	無	通学路指定の 有無	有

■点検情報

点検種別	定期点検（詳細）	点検方法	近接目視	点検年月日	2021年 〇月 〇日	前回点検 年月日	2016年 〇月 〇日
点検員 (所属・氏名)	株式会社〇〇〇〇		〇〇〇〇	備考			
施設更新 履歴	前回設置年月						

箇所図



全景写真



注1:緯度・経度については、世界測地系で0.1"単位まで記入する注2:距離標、センサス(年度、区間、交通量)については、ある場合に記入する。

大阪府道路附属物（標識・照明等）点検要領

表付 1-7 道路情報提供装置（門型）＜記入例＞点検表（点検結果票）

種別	道路情報提供装置（添架物有）	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	-----	---------	------	------

■点検結果

部材及び点検箇所			対象有無	点検状況	損傷程度の評価														対策の要否	部材の健全性の診断※1										
					変状の種類																									
					鋼部材						コンクリート部				共通															
部材等	点検箇所	記号	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後	点検時	措置後										
支柱	支柱本体	支柱本体	Pph	有	済	a					a														否	□				
		支柱継手部	Ppj	無																										
		支柱分岐部	Ppd	無																										
		支柱内部	Ppi	有	済	a						a									a									
		リップ・取付溶接部	Pbr	有	済	a						a		a																
		柱・ベースプレート溶接部	Pbp	有	済	a						a		a																
	支柱基部	ベースプレート取付部	Pbb	有	済	a		a		a		a		a																
		路面境界部 (GL-0)	Pgl-0	無																										
		路面境界部 (GL-40)	Pgl-40	無																										
		柱・基礎境界部	Ppb	無																										
		その他	電気設備開口部	Phh	有	済	a						a		a															
			開口部ボルト	Phb	有	済	a		a		a		a		a															
横梁本体	Cbh		有	済	a						e		a																	
横梁	横梁本体	横梁取付部	Cbi	有	済	a		a		a		a		a																
		横梁トラス本体	Ch	有	済	a						c		a																
	溶接部・継手部	横梁仕口溶接部	Cbw	有	済	a						a		a																
		横梁トラス溶接部	Ctw	有	済	a						a		a																
	吊下げ金具	横梁継手部	Cbj	無																										
		吊下げ金具	Chh																											
標識板等	標識板	標識板（添架含む）	Srs	有	済	a		a		a		a		a																
		標識板取付部	Srs	有	済	a		a		a		a		a																
	道路情報板	道路情報板	Srs	有	済	a		a		a		a		a																
		道路情報板取付部	Srs	有	済	a		a		a		a		a																
	その他（灯具等）	灯具	Sli	無																										
灯具取付部		Sli	無																											
基礎	基礎コンクリート部	Bbc	有	済	a								a		a		a		a											
	アンカーボルト・ナット	Bab	有	済	a		a		a		a		a																	
その他	ブラケット	ブラケット本体	Brh	無																										
		ブラケット取付部	Bri	無																										
	その他	バンド部（共架型）	Xbn	無																										
		配線部分	Xwi	有	済	a						a		a																
		管理用の足場・作業台	-	有	済	a		a		a		c		a																
		吊下げ金具	Xhh																											

■所見（その他特記事項）

- ・腐食・孔食が広範囲に進展しているため、早急に撤去等が必要
- ・占用物件（添架標識）については点検未実施。占用者へ点検を要請したい。

■点検予定

点検ができなかった部位	無	点検予定時期	
点検ができなかった理由		点検実施方法	

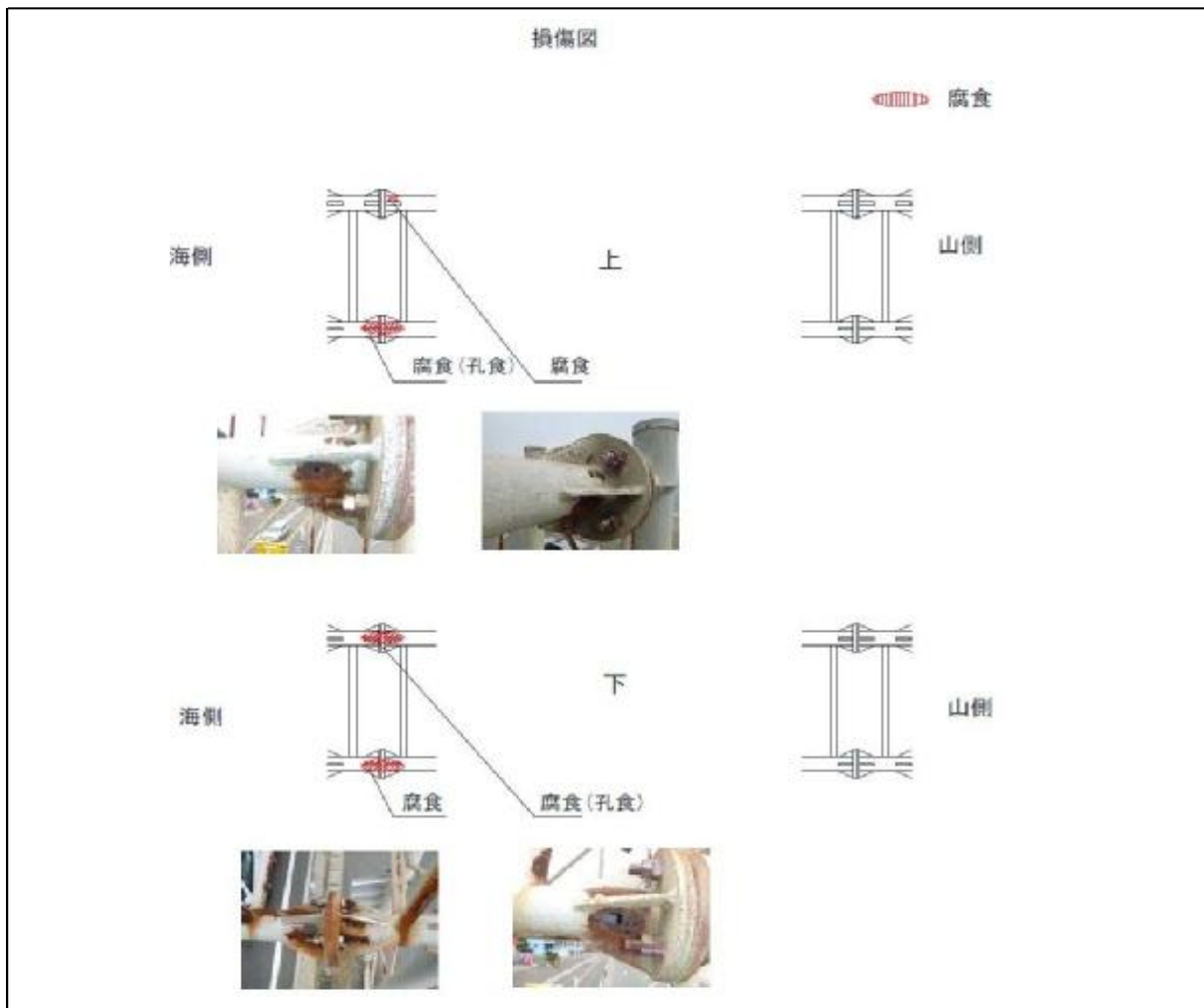
※1:少なくとも門型式の道路標識及び道路情報提供装置の初期点検及び定期点検では部材単位の健全性の診断を行う。
 ※2:門型標識等の初期点検及び定期点検では、施設毎に施設単位で総合的な健全性の診断を行う。
 ※3:部材の健全性の診断欄のハッチ(濃いグレー)部は、通常では存在しない点検箇所と変状の種類を組み合わせたものである。
 ※4:点検調査(例)は、各道路管理者の判断により、大型の道路標識及び道路情報提供装置以外についても定期点検を実施する場合を想定し、共通様式として使用できるよう作成したものである。

表付 1-8 道路情報提供装置（門型）＜記入例＞ 点検表（損傷記録票）

種別	道路情報提供装置（添架物有）	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	-----	---------	------	------

■損傷程度の評価および措置（応急含む）

部材名称	横梁本体									
損傷程度 の評価	部材判定	変状の種類								
		鋼部材					コンクリート部材		共通	
		亀裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他
	点検時評価	a			e	a				-
措置後評価										
(応急含む) 措置	実施内容									
	未実施	理由	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、早急に撤去等が必要							
		予定時期	2021年〇月							
未実施	予定内容	撤去								
特記事項	腐食が進展し、孔食まで至っている。海岸線から 100m 以内の環境にあり、飛来塩分により腐食が促進されたものと思われる。									



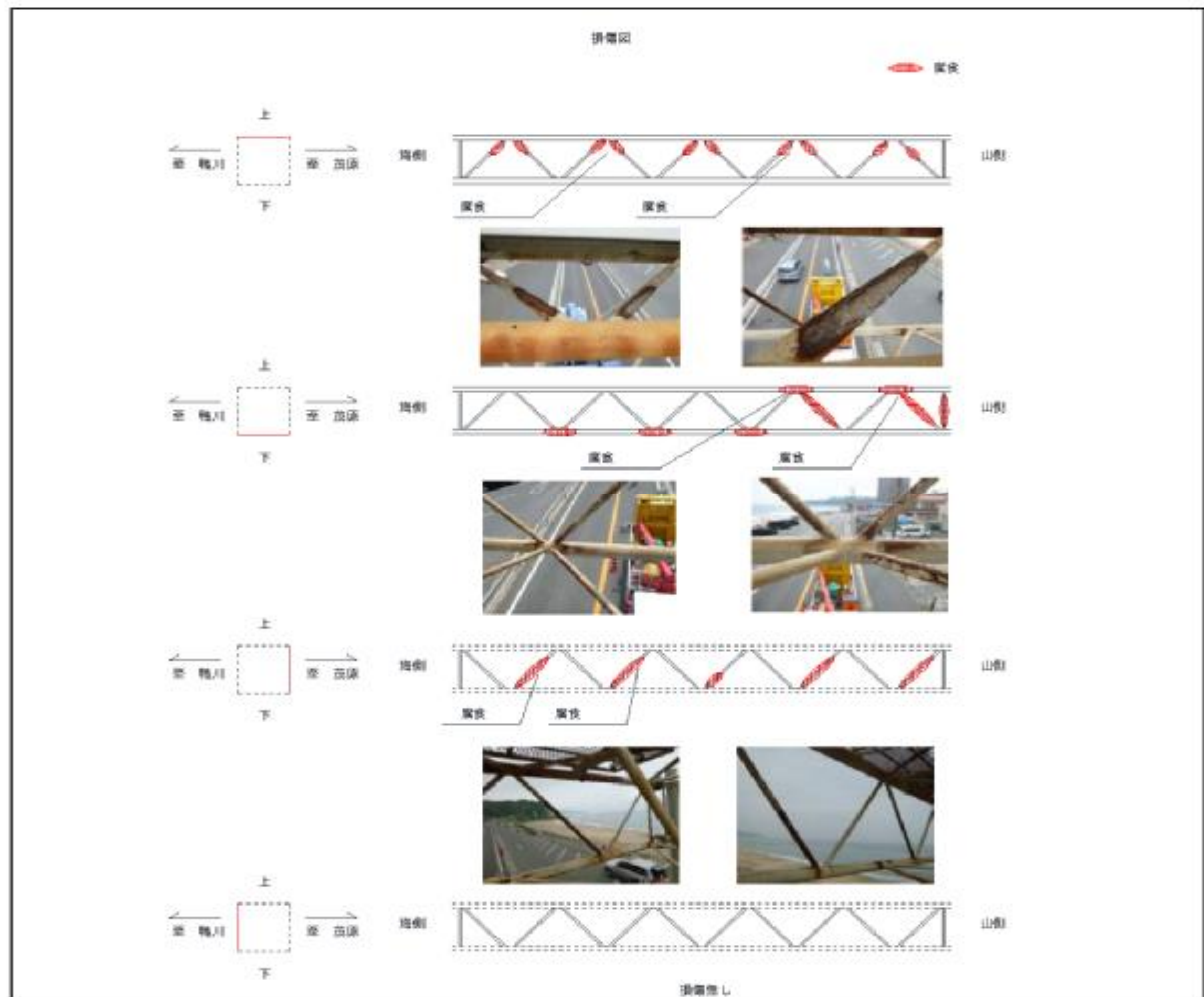
※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

表付 1-9 道路情報提供装置（門型）＜記入例＞ 点検表（損傷記録票）

種別	道路情報提供装置（添架物有）	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	-----	---------	------	------

■損傷程度の評価および措置（応急含む）

部材名称	横梁トラス本体										
損傷程度 の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		亀裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価	a			c	a				-	
措置後評価											
措置 応急含む	実施内容										
	未実施	理由	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、撤去・更新の検討が必要								
		予定時期									
予定内容											
特記事項	海岸線から 100m 以内の環境にあり、飛来塩分により腐食が促進されたものと思われる。										



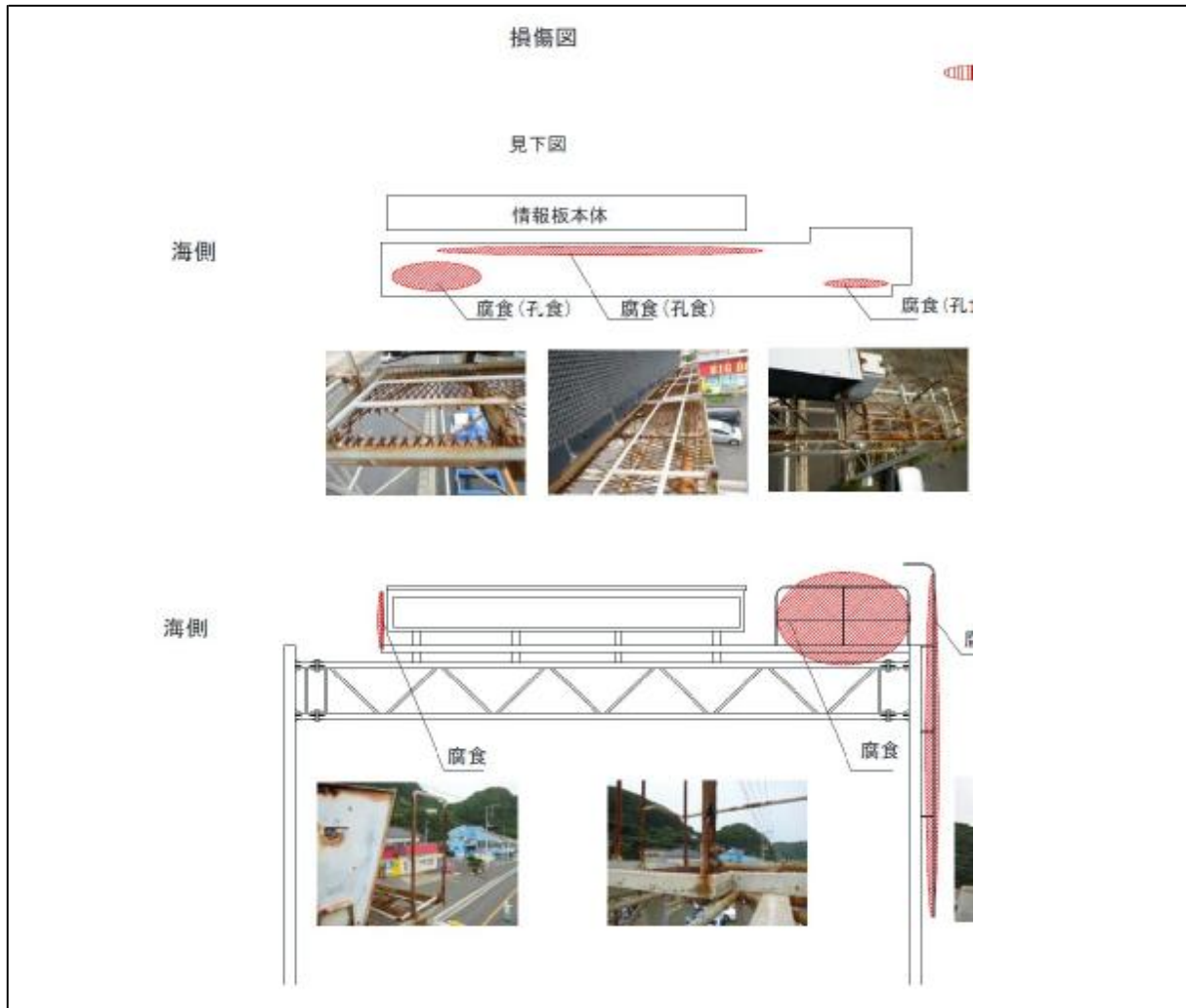
※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成（変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する）

表付 1-10 道路情報提供装置（門型）＜記入例＞点検表（損傷記録票）

種別	道路情報提供装置（添架物有）	管理者	大阪府	〇〇土木事務所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	-----	---------	------	------

■損傷程度の評価および措置（応急含む）

部材名称	管理用の足場・作業台										
損傷程度の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		亀裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価	a	a	a	c	a				-	
措置後評価											
措置 応急含む	実施内容										
	未実施	理由	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、詳細調査を実施し、撤去・更新の検討が必要								
		予定時期	2014年〇月中旬								
	予定内容	未定									
特記事項	腐食が進展し、孔食まで至っている。海岸線から 100m 以内の環境にあり、飛来塩分により腐食が促進されたものと思われる。										



※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

1-2-5 門型標識等調査結果記録様式

門型標識等の調査結果は、様式（その1）、様式（その2）についても作成する。

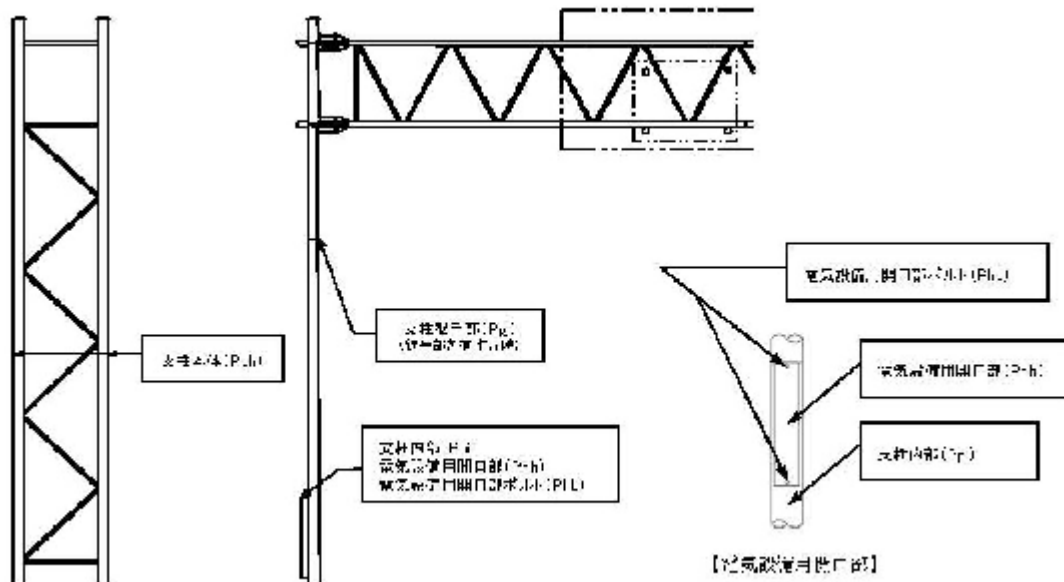
(1) 一般的構造と主な着目点

門型支柱（オーバーヘッド式）を有する大型の道路標識及び道路情報提供装置の定期点検における部材の主な着目点の例を以下に示す。

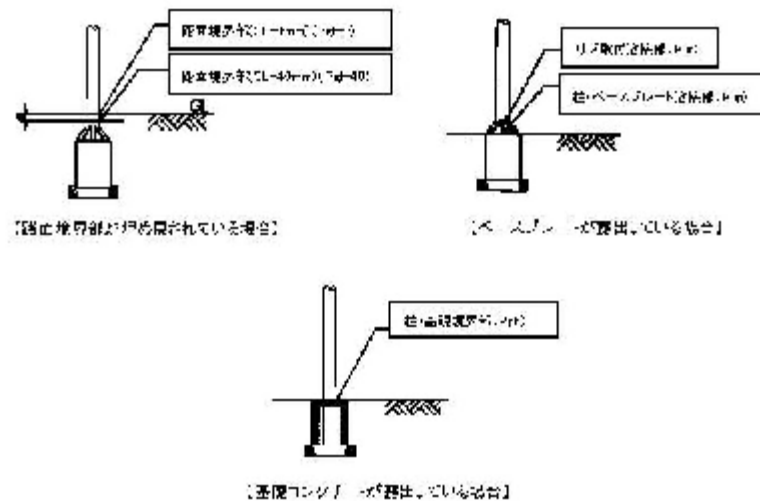
① 支柱

1) 主な点検箇所（弱点部となる部材等）

- ・ 支柱本体
- ・ 支柱継手部
- ・ 支柱内部
- ・ 電気設備用開口部
- ・ 電気設備用開口部ボルト
- ・ 路面境界部（GL-0mm）
- ・ 路面境界部（GL-40mm）
- ・ リブ取付溶接部
- ・ 柱・ベースプレート溶接部
- ・ 柱・基礎境界部



図付 1-5 主な点検箇所（支柱 1/2）



図付 1-6 主な点検箇所（支柱 2/2）

2) 点検時の主な着目点

- ・ 各溶接部は、疲労亀裂が生じやすい。
- ・ 支柱継手部の内部に接合用リングを設置している場合、支柱の結露等により支柱内部から腐食することがある。
- ・ 路面境界部及び柱・基礎境界部の腐食は、突然の倒壊を起こす要因になるため特に注視する必要がある。
- ・ 電気設備開口部のパッキンの劣化や通気孔につまりがあると、支柱内部の滞水及び腐食が生じやすい。また、滞水が見られる場合には、変状が急速に進展することがある。

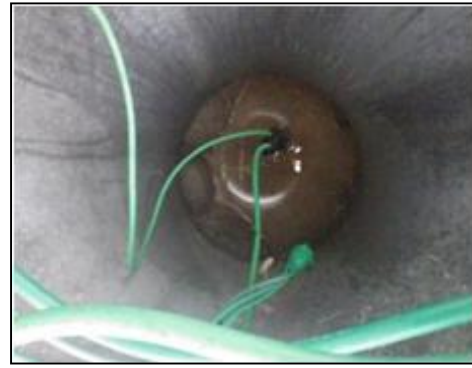
なお、路面境界部（GL-40mm）の掘削実施の目安については、「大阪府道路附属物（標識・照明等）点検要領」（平成 28 年 4 月 大阪府都市整備部）を参考にすることができる。

<参考>

支柱内部が滞水している、又は滞水の形跡がある場合は、雨水が入らないようパッキンの交換等を行うことが望ましい。



滞水の形跡がある場合



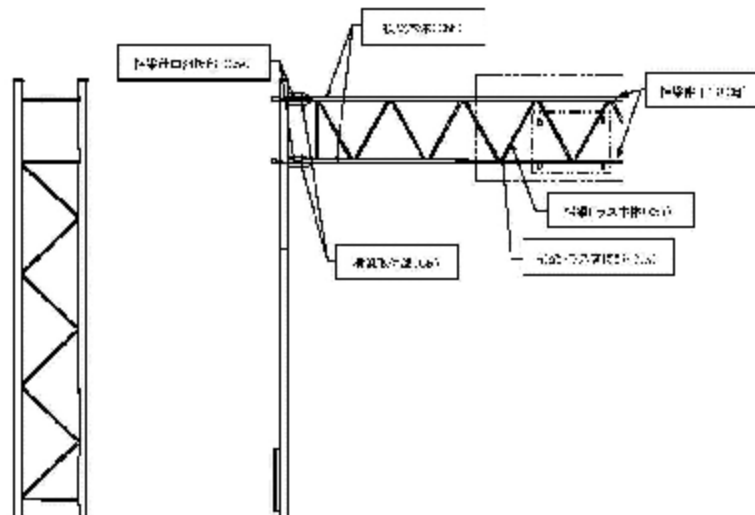
滞水している場合

図付 1-7 支柱内部の滞水事例

② 横梁

1) 主な点検箇所（弱点部となる部材等）

- ・ 横梁本体
- ・ 横梁仕口溶接部
- ・ 横梁取付部
- ・ 横梁トラス本体
- ・ 横梁トラス溶接部
- ・ 横梁継手部



図付 1-8 主な点検箇所（横梁）

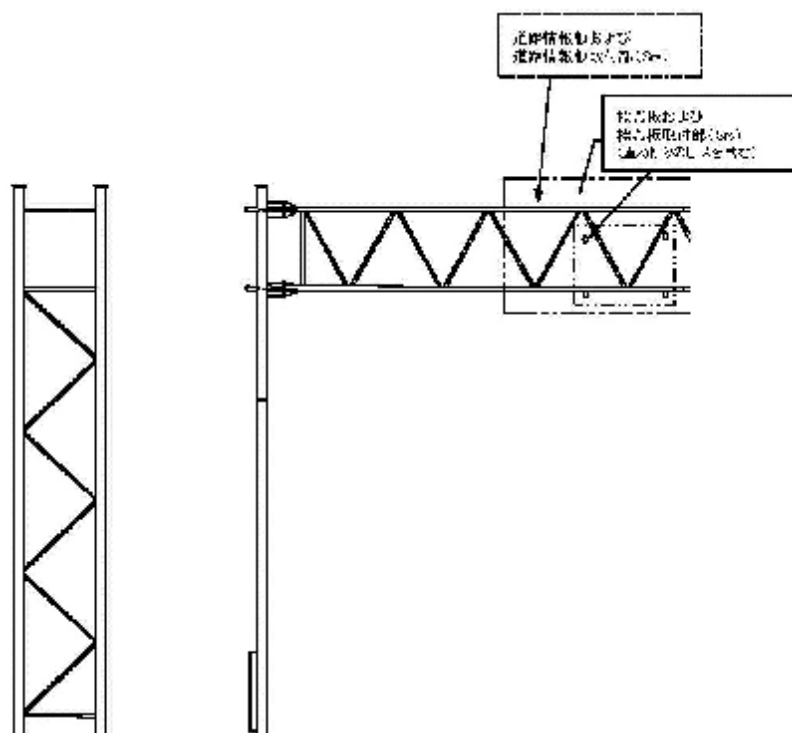
2) 点検時の主な着目点

- ・ 各溶接部は、疲労亀裂が生じやすい。
- ・ 横梁取付部は、振動によりボルトのゆるみ・脱落が生じることがある。

③ 標識板及び道路情報板

1) 主な点検箇所（弱点部となる部材等）

- ・ 標識板及び標識板取付部
- ・ 道路情報板及び道路情報板取付部



図付 1-9 主な点検箇所（標識板及び道路情報板）

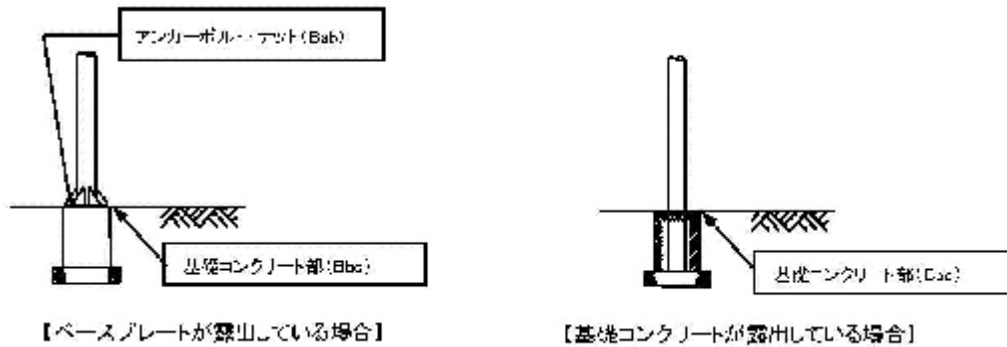
2) 点検時の主な着目点

- ・ 標識板取付部（道路情報板取付部）は、振動によりボルトのゆるみ・脱落が生じることがある。
- ・ 標識板に車両接触痕がある場合、取付け部等に著しい変形や亀裂が生じていることがある。
- ・ 標識板に重ね貼りした場合、ビスの腐食が生じることがある。
- ・ ヒンジ構造で標識板を吊下げている構造（吊下式）については、標識板が落下する事案が発生していることから、接合部の点検に特に注視する必要がある。

④ 基礎

1) 主な点検箇所（弱点部となる部材等）

- ・基礎コンクリート部
- ・アンカーボルト・ナット



図付 1-10 主な点検箇所（基礎）

2) 点検時の主な着目点

- ・アンカーボルト・ナットは、振動の影響でゆるむことがある。
- ・基礎コンクリートは、振動や雨水の滞水等の影響により、ひびわれや剥離が発生する場合がある。

⑤ その他

門型支柱（オーバーヘッド式）を有する大型の道路標識及び道路情報提供装置に管理用の足場や作業台などがある場合には、弱点部となる部材等を適切に設定し、定期点検を行う必要がある。

(2) 判定の手引き

部材単位での健全性の診断を行う場合の参考となるよう、典型的な変状例に対して、判定にあたって考慮すべき事項の例を示す。なお、各部材の状態の判定は、定量的に判断することは困難であり、また門型標識等の構造形式や設置条件によっても異なるため、実際の点検においては、対象の門型標識等の条件を考慮して適切な区分に判定する必要がある。

本資料では、表付 1-11 に示す変状の種類別に、参考事例を示す。


表付 1-11 変状の種類

鋼部材	コンクリート部材	その他
①亀裂 ②破断 ③変形・欠損・摩耗 ④腐食 ⑤ゆるみ・脱落	⑥ひびわれ	


■鋼部材：①亀裂


支柱基部（リブ取付溶接部）			
IV		備考	<p>応力の繰り返しを受ける支柱基部のリブ溶接部などでは、亀裂が支柱本体に進展した場合には、支柱の破断、倒壊の恐れがあるため、直ちに緊急的な対応を行うべきと判断できることがある。</p>
<p>例：リブ取付溶接部全体に亀裂が発生している場合</p>			

支柱基部（支柱継手部）			
IV		備考	<p>支柱継手部の溶接部などでは、亀裂は内部まで貫通していることがあり、亀裂の進行に伴い支柱の破断、倒壊の恐れがあるため、直ちに緊急的な対応を行うべきと判断できることがある。</p>
<p>例：支柱継手部の溶接部に亀裂が発生している場合</p>			



横梁溶接部・継手部（横梁継手部）			
IV		備考	<p>横梁継手部における亀裂は、風や振動などによる応力の繰り返し作用による亀裂の進行により破断、落下の恐れがあるため、直ちに緊急的な対応を行うべきと判断できることがある。</p>
<p>例：横梁継手部の溶接部に亀裂が発生している場合</p>			


■鋼部材：②破断

支柱本体（支柱継手部）	
IV	 <p style="text-align: center;">（亀裂進行に伴う破断の例）</p> <p>例：支柱本体が破断している場合</p>
備考	<p>支柱本体等の主部材の破断は、倒壊に繋がるため、主部材が破断する恐れがある場合には、直ちに緊急的な対応を行うべきと判断できることがある。</p>




その他（電気設備用開口部）	
IV	 <p style="text-align: center;">（亀裂進行に伴う破断の例）</p> <p>例：支柱の電気設備用開口部下側で破断している場合</p>
備考	<p>電気設備用開口部では、内部への水の浸入により、板厚減少を伴う腐食が発生しているなどにより、支柱の破断につながる恐れがあることもある。</p>




■鋼部材：③変形・欠損・摩耗

支柱本体			
II		III	写真なし
	例：倒壊への影響は小さいが、支柱本体が微少に変形しており、性能が低下している可能性がある場合		例：支柱本体が大きく変形しており、性能が低下している場合
IV		備考	鋼部材の塑性変形は耐荷力の低下につながる危険性が大きい。特に大きな応力を負担する部材の耐荷力低下は、構造安全性に大きく影響を及ぼす。 なお、原因が明確でない場合には、調査を行って原因を絞り込むことが必要と判断される場合がある。
	例：横梁継手部の溶接部に亀裂が発生している場合		

支柱本体			
II		III	
	例：落下の恐れはないものの、標識板の裏面部材が変形している場合		例：車両接触等の影響により、標識板が変形しており、放置すると変状の進行により落下に至る可能性がある場合
IV		備考	衝突などにより標識板の取付部が変形している場合、風などによる応力の繰り返し作用により、損傷が進行し、標識板の落下の恐れがある場合には、直ちに緊急的な対応を行うべきと判断できることがある。
	例：車両接触等の影響により、取付部が変形（又は破断、亀裂）しており、標識板が落下する恐れがある場合		


■鋼部材：④腐食


支柱本体			
II		III	
	例：板厚減少はほとんど生じていないが、放置すると全体に深刻な腐食の拡大の可能性がある場合		例：腐食により板厚減少を伴う腐食が発生しており、倒壊の恐れがある場合
IV		備考	<p>異種金属接触による腐食が原因の場合は急速に腐食が進行する恐れがある。また、バンドなどの取付け部において、雨水等が滞水しやすい状況においては、急速に腐食が進行する場合もある。</p> <p>腐食による著しい板厚減少により支柱が破断し、倒壊する恐れがある場合がある。</p>
	例：腐食により、構造安全性が損なわれる断面欠損、貫通や著しい板厚減少がある場合		

横梁本体（横梁取付部）			
II		III	
	例：腐食による板厚減少はほとんど生じていないが、放置すると全体に深刻な腐食の拡大の可能性がある場合		例：板厚減少を伴う腐食が進行しており、落下の恐れがある場合
IV		備考	<p>支柱や横梁の取付部などの応力が集中する部位等で、板厚減少を伴う腐食が発生した場合、構造安全性に大きく影響を及ぼすため、直ちに緊急的な対応を行うべきと判断できることがある。</p>
	例：腐食により、構造安全性が損なわれる断面欠損、著しい板厚減少がある場合		

支柱基部（路面境界部）	
II	 <p>例：腐食による板厚減少はほとんど生じていないが、放置すると全体に深刻な腐食の拡大の可能性がある場合</p>
III	 <p>例：板厚減少を伴う腐食が進行しており、倒壊の恐れがある場合</p>
IV	 <p>例：腐食により、構造安全性が損なわれる断面欠損、貫通、著しい板厚減少がある場合</p>
備考	<p>電気設備用開口部ボルトに脱落がある場合、ボルト孔から内部に水が浸入し、内部で腐食が発生しているなどの恐れもある。</p>

■鋼部材：⑤ゆるみ・脱落

横梁取付部	
IV	 <p>例：横梁取付部に緊急に措置すべきナットのゆるみがある場合</p>
備考	<p>ボルトのゆるみの原因が振動等の場合、放置しておくとも脱落をする恐れがある。また、締め直しても早期にゆるみが生じる可能性がある。</p>

電気設備用開口部ボルト	
IV	 <p>例：電気設備用開口部ボルトに緊急に措置すべきボルトの脱落がある場合</p>
備考	<p>電気設備用開口部ボルトに脱落がある場合、ボルト孔から内部に水が浸入し、内部で腐食が発生しているなどの恐れもある。</p>

■コンクリート部材：⑥ひびわれ


横梁本体（横梁取付部）	
II	 <p>例：倒壊の影響は小さいが、基礎コンクリート部に微少なひびわれが発生しており、放置すると、内部への雨水の侵入などにより、地中部で腐食が発生・進行し、倒壊に至る可能性がある場合</p>
III	 <p>例：内部鋼材の腐食が疑われるひびわれが発生している場合</p>
IV	 <p>例：著しいコンクリートのひびわれが発生している場合</p>
備考	<p>基礎コンクリートにひびわれ等が生じ、路面境界に滞水や腐食が認められる場合には、コンクリート内部で腐食が進行している可能性がある。</p>

(3) 点検表記録様式と記入例

記録する様式と記入例を表付 1-12～15 に示す。

表付 1-12 点検表記録様式（その1）記入例

様式 1





施設名・形式		管理番号	路線名	所在地	設置位置	緯度 経度	ID番号
道路標識設置 門型式		000000	府道〇〇号 △△線	大阪府△△市〇〇〇〇〇〇△△		43° 10' 20"	0000020000
管理番号			定期点検実施年月日	2014年 〇月 〇日	定期点検者	〇〇〇〇〇	〇〇 〇〇
大阪府 △△土木事務所			自専道or一般道		占平物件（名称）		
代物路の有無			一般道		-		
有			二次				
部材単位の健全性の診断（部材毎に最も悪い健全性の診断結果を記入）							
定期点検時に記録				応急措置後に記録			
部材等	指定区分 （Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類 （Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等が 分かるように記載）	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定 実施年月日	
支柱	Ⅰ						
橋脚	Ⅳ	腐食	写真1	Ⅰ	腐食	2022年 △月 △日	
橋脚板または道路材料板	Ⅰ						
基礎	Ⅰ						
その他	Ⅲ	腐食	写真2、3	Ⅰ		2022年 △月 △日	
円型標識等の健全性の診断（対象区分Ⅰ～Ⅳ）							
定期点検時に記録				定期点検時に記録			
（判定区分）	（所見等）						
Ⅳ	腐食・剥離が広範囲に進展しているため、緊急に措置が必要						
写真写真							
写真番号	道路幅員(m)						
1964年 〇月	8.0						
引道形式							
		起点側					
							

※1：設置年月が不明の場合は「不明」と記入する。

表付 1-13 点検表記録様式（その2）記入例

構式2

状況写真（標識状況）

施設名 (形式)	道路情報提供装置 (門式)	管理 番号	000000	路線名 管理者名	府道00号△△△線 大阪府 △△土木事務所	定期点検者	(株)○○○○	0000	点検年月日	2022年 ○月 ○日
写真番号	写真1	変状の種類	構架 構架本体 腐食		写真番号	写真2、3		部材名	その他 管理用の正橋	
健全性の診断	IV	緊急措置後	II		健全性の診断	定期 点検時		II		
緊急措置内容	構架の補強	緊急措置後	I		緊急措置内容	緊急措置後		I		
所見					所見					
備考欄				備考欄						
写真番号		変状の種類			写真番号			部材名		
健全性の診断		緊急措置後			健全性の診断	定期 点検時				
緊急措置内容		緊急措置後			緊急措置内容	緊急措置後				
所見					所見					
備考欄				備考欄						

○相対単位の健全性の診断(判定区分)が、II、III又はIVの部材について記載する。なお、同一部材で、変状の種類が異なる場合は、変状の種類毎に記載する。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

表付 1-14 点検表記録様式（その1）

様式1

別紙2 様式1様式2
基本情報等

施設名・形式	管理番号	路線名	所在地	設置位置	標識 程度	ID番号
管注者名						
代替路の有無	緊急輸送道路	定期点検実施年月日		定期点検者		
		白導道の一般道		占用物件(名称)		

部材単位の健全性の診断(部材毎に最も悪い健全性の診断結果を記入)
定期点検時に記録

部材等	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等 が分かるように記載)	応急措置後に記録	
				応急措置後の 判定区分	応急措置内容及び判定 実施年月日
支柱					
横梁					
標識板または道路情報板					
基礎					
その他					

門型標識等吊の健全性の診断(対策区分Ⅰ～Ⅳ)
定期点検時に記録

(判定区分) (所見等)	
--------------	--

全景写真

設置年月※1	道路幅員(m)
構造形式	

※1:設置年月が不明の場合は「不明」と記入とする。

表付 1-15 点検表記録様式（その2）

様式2

別紙2 様式1様式2
点検写真(損傷状況)

施設名 (形式)		区番号		路線名 管理者名		定期点検者		点検年月日	
写真番号	部材名	写真		写真番号	部材名	写真		写真	写真
変状の種類	健全性の診断	変状の種類	健全性の診断	変状の種類	健全性の診断	変状の種類	健全性の診断	健全性の診断	健全性の診断
緊急処置内容	所見	緊急処置内容	所見	緊急処置内容	所見	緊急処置内容	所見	緊急処置内容	所見
備考欄	備考欄	備考欄	備考欄	備考欄	備考欄	備考欄	備考欄	備考欄	備考欄

○部材単位の健全性の診断(判定区分)がⅡ、Ⅲ又はⅣの部材について記載する。なお、同一部材で、変状の種類が異なる場合は、変状の種類毎に記載する。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。